

令和6年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①教育活動の質的向上を図る。 ②学力向上と進路実現に向けて、主体的に学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育成する。	①生徒が主体的・協働的に取り組む学習を行い、更なる授業改善を図る。 ②ICT 機器等の利用により、学習意欲を高めるとともに、自学自習の習慣を身に付けさせる。	①体験的な活動や他者と協働する活動を行う。 ②各教科において ICT 機器等を積極的に利用し、組織的な授業改善を図る。	①生徒が他者と協働して主体的に取り組むことができたか。 ②ICT 機器等を利用し、授業内容を工夫したか。
2	生徒指導・支援	①規範意識や基本的生活習慣の定着を図る。 ②個に応じた教育相談体制を充実させ、SC・SSWと連携し、課題解決に向けて取り組むことができる人材の育成を図る。 ③部活動や委員会活動、学校行事に主体的に参加し、他者と協力しながら魅力ある学校生活の創造を図る。	①「一人は一校を代表する」を推進し、社会性が身に付く教育を行う。 ②学校内の連絡を密にし、教育相談が必要と思われる生徒に対して、SC・SSWと連携し手厚い指導を行う。 ③1年生の部活動加入を推進する。委員会活動を活性化させる。	①日頃より、身だしなみ指導や登校指導を通しての規範意識向上に努め、特別指導の件数を抑える。 ②かながわ子どもサポートドック等を活用し、生徒情報の共有を密にし、SC・SSWと連携し生徒の学校生活をサポートする。 ③部活動の活動結果等を在校生にも広く発信する。委員会活動内容を精査し、活動の頻度を上げる。	①特別指導の件数を昨年度より減らすことができたか。 ②教育相談が必要とされる生徒に対して、効果的な支援ができたか。 ③部活動加入率だけでなく、実加入者の割合との比較において開きはないか。一斉委員会で立てた目標が達成できたか。
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細やかなキャリア教育の実践を図る。 ②地域連携を通して、地域に求められる人材育成を図る。	①多様な進路希望に対応するため、年間を見通した指導計画の再構築を実践する。 ②地域の特性を踏まえ、人的・物的資源を活用した人材育成を図る。	①ガイダンスや模試等の見直しを図り、ニーズに応じた在り方を実践する。 ②企業や職業安定所、その他の外部機関との連携を強化し、生徒の就職指導を充実させる。	①小論文講演会の活用により、小論文模試の意義を高め、年3回実施される模試の充実を図ることができたか。 ②地元企業との関係性を深め、生徒に的確な進路情報を提供することができたか。特に就職希望者は内定率が100%であったか。
4	地域等との協働	①地域と連携、協働した学習環境の確立及び発展を図る。 ②地域貢献に資する人材を育成する。	①地域協働学習実施支援員やコンソーシアムの活用による学習の充実を図る。 ②学校行事や地域行事、各教科等における地域と協働した学習を推進する。	①「総合的な探究の時間（未来探究）」を中心とした学習において、地域人材や地域企業との協働学習を展開する。 ②地域と学校の交流を積極的に行う。また、発表活動などを通して、他校種における生徒、児童及び教員との交流を推進する。	①地域人材や地域企業と連携協働し、協力団体の活用を10回以上行えたか。 ②行事や教科等において、地域と学校間の人材交流が推進されたか。
5	学校管理 学校運営	①働き方改革の視点を重視し、教員のワークライフバランスの推進を図る。 ②ハード面・ソフト面の両面において、職場の環境改善を図る。	①企画会議において、働き方改革を進めるため、業務改善を図る案を検討する。 ②業務アシスタントが2名体制となったため、業務の割り当てを検討する。	①各学年より、意見・企画を持ち寄り、企画会議で検討していく。 ②グループから業務アシスタントに依頼する内容を一覧としてまとめる。	①働き方改革についての話し合いと、企画の検討ができたか。 ②業務アシスタントの業務を整理し、一覧表が作成できたか。